

目録系研修の検討状況

- 目録系講習会等検討WG活動状況報告 -

国立情報学研究所 開発・事業部
企画調整課課長補佐 小陳 左和子

講習会の開催状況(平成18年度)

名称	コース	期間	会場	回数	定員	
目録システム講習会	図書	3日間	NII	6*	34	419
			地域	11	12～30	
	雑誌	3日間	NII	3	34	210
			地域	4	20～34	
ILLシステム講習会		2日間	NII	3	34	117
			地域	1	15	
合計				27		746

* 目録システム講習会(図書コース)のうち1回は、請負業者を対象として開催

講習会の課題 (1) 受講機会・対象 -1

□ 受講希望に対する充足率が低い

(平成18年度)

名称	コース	会場	定員	申込件数	充足率
目録システム 講習会	図書	NII	204	約270	75%
		地域	215	263	82%
	雑誌	NII	102	192	53%
		地域	108	約130	83%
ILLシステム 講習会		NII	102	190	54%
		地域	15	26	58%
合計			746	約1,071	70%

講習会の課題 (1) 受講機会・対象 -2

- 同じ講習会・コースを再受講できない
 - × 目録業務を離れていた者が再び担当になったため、再度受講したい
 - × 理解度に応じて反復受講したい

- 立場上、受講が困難な担当者が増えている
(請負業者・派遣職員の増加)
 - 大学側から受講推薦を受けられないケース
 - 業務を請け負う立場で3日間職場を空けられるか？

- 多様なニーズに応えるのが難しい
 - 例えば、学生への教育

講習会の課題 (2) 講師の確保・負担

【講師分担例】 目録システム講習会：図書コース (NII会場)

目録システム概論, 目録情報の基準, 補講	NII講師1名
検索総論・技法・実習 登録総論・実習	外部(大学等)講師2名 大学図書館OGを含む
実習補助, 講師PCオペレーション	委託業者3名
講習会運営	NII研修係3名

- 講師の確保に一苦労
 - NII, 大学ともに, 担当者が減少
- 講師の負担
- 講師によるスキルの差

講習会の課題 (3) 講習時間・内容

- 期間 (CAT: 3日間, ILL: 2日間) の制限
 - 「実習時間が足りない」(受講者アンケートから)
- 講習内容の理解が不十分
 - 「理解できなかった」+「理解できない部分があった」
= 受講者の1/3 (受講者アンケートから)
- 多様な要望
 - 例えば, 「目録規則の講習をしてほしい」
- 講習後のフォローアップ, アフターケアの必要性

NACSIS-CAT/ILLが抱える課題

書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト

(平成16年9月～平成17年10月)

- 総合目録データベース, ILLサービスの品質低下
 - 重複書誌レコードの増加
 - 雑誌所蔵データの未更新
 - ILL謝絶率の上昇

【背景】

- ✓ 共同構築・相互利用の理念・意識の変化
- ✓ 図書館としての運用方針の変化
- ✓ 担当者のスキルの低下

NACISIS-CAT/ILLの課題解決に向けて

【NIIアクションプラン】

「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト最終報告」(平成17年10月)

- NACISIS-CAT/ILL運用ガイドライン
- 外注のための仕様書モデルの提示
- **研修の強化と資格・認定制度の提案**
- 図書書誌レコード調整方式の改善
- 雑誌所蔵更新への強制力
- 図書館評価のための基礎的数値の開示

目録系講習会等検討WGの設置

目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討ワーキンググループ

□ 設置目的

- 「書誌ユーティリティ課題検討プロジェクト」の提言を受けて設置
- 総合目録データベースの品質維持, 目録担当者のスキル向上のため, 目録系研修の内容・実施方法等について, 改めて検討する

□ 設置期間

- 平成17年12月～平成19年3月

WGメンバー

- 横井 有紀 釧路工業高等専門学校庶務課情報資料係長
- 米澤 誠 東北大学附属図書館工学分館管理係長
- 早瀬 均 名古屋大学附属図書館事務部長【主査】
- 斉藤 泰雄 大阪教育大学学務部学術情報課天王寺分館サービス係《H18.9～》
- 澤村 裕 関西学院大学図書館運営課主任
- 片山 俊治 広島大学図書館部学術情報企画課長
- 藤田 儒聖 島根県立大学メディアセンター司書
- 矢崎 美香 九州共立大学附属図書館業務課主査
- 相原 雪乃 国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課課長補佐
- 茂出木 理子 国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課課長補佐《～H18.3》
- 小陳 左和子 国立情報学研究所開発・事業部企画調整課課長補佐《H18.4～》

事務局

- 成澤 めぐみ 国立情報学研究所開発・事業部企画調整課研修係長
- 藤井 眞樹 国立情報学研究所開発・事業部企画調整課研修係員

WGスケジュール・目標

H17.12 ~ H18.03	問題点の把握, 検討課題の洗い出し, 方向性の検討
H18.03	「中間報告書」策定
H18.04 ~ H18.05	「中間報告書」公開, 意見募集 http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/ncat_info_WG_edu.html
H18.04 ~ H19.03	各課題の具体的検討 改善策の一部試行, 評価, 改良
H18.06	海外書誌ユーティリティ現地調査(米国出張)
H19.03	「最終報告書」策定, 公開
H19.04 ~	アクションプランを順次実施

海外書誌ユーティリティ現地調査

OCLCの目録研修事業について，WGメンバーが現地調査を行った。

□ 訪問先

- OCLC本部（米・オハイオ州ダブリン）
- Regional Service Provider
 - PALINET（米・ペンシルバニア州フィラデルフィア）
 - Amigos Library Services（米・テキサス州ダラス）
- OCLC会員大学図書館
 - University of Pennsylvania（フィラデルフィア）
 - University of Texas at Dallas（ダラス）

□ 日程

平成18年6月13日(火)～18日(日) 4泊6日

調査内容, 学んだこと -1

- RSPの役割: OCLCとRSPは“co-worker”
 - OCLC及びRSPによる研修
 - OCLC: 基礎的な教材の提供
 - RSP: 独自の教材作成, 集合研修・e-Learning実施
 - 会員館へのOCLCサービスの研修・サポートは, RSPが実施
 - OCLCは, RSPに対して製品・サービスの説明・研修を実施

 - 目録の品質に関する会員館への連絡
OCLC RSP 会員館
 - OCLCがレコードの品質をチェック, 質の低下が目立つ会員館へはRSPを通じて注意喚起
 - RSPが会員館の状況を把握し, 研修プログラムに反映

調査内容, 学んだこと -2

- e-Learningの活用
 - 集合研修 (Face-to-Face) との使い分け
 - Live Online と Self-Paced の使い分け

- それぞれの役割と責務を明文化, 共通認識
 - 「WorldCat共同構築の原則」
 - 「WorldCat参加のガイドライン」

課題検討・実施状況と今後の予定 - 1

- 到達度確認テスト(仮称)の実施
 - 講習内容の理解度を, Webベースのテストで確認
 - WGサブグループで問題作成
 - 平成17年度末から, 一部講習会で試行
 - 平成19年度から, すべての目録システム講習会(NII及び地域開催)で正式実施予定

課題検討・実施状況と今後の予定 -2

- 講習内容のe-Learning化
 - WGサブグループで，導入部分を検討
 - 平成18年度後期，コンテンツ作成に着手
 - 「目録システム概論」「目録情報の基準」
 - 平成19年度から，目録システム講習会(NII開催)で試行予定
 - はじめは，遠隔利用ではなく講習会場で使用
受講者の反応を確認，評価，改良
 - ILLは完全e-Learning化の方向で検討
 - 平成19年度開発，試行予定
 - モニター募集，評価，改良
 - 次の展開として，遠隔利用，コンテンツの拡充

課題検討・実施状況と今後の予定 -3

□ 講師の確保・養成

■ 講師担当者の組織形成を検討

- 大学図書館職員OB・OG, 現役を含む
- NIIは, 組織形成を支援し, 活動に対価を支払う

■ 講師養成のための研修を新設？

- 総合目録データベース実務研修との切り分け
DB研修は, 目録の専門研修に特化？

課題検討・実施状況と今後の予定 -4

□ 地域活動との連携強化

- WGサブグループで、事業モデルを検討中
- 地域活動としての講習会の開催
 - 講師の確保
 - 研修教材の作成
- 講習会後のフォローアップ体制
- 各地域独自の研修企画
 - 企画・実施に対してNIIが支援
- 「WG最終報告書」でプロトタイプを提示予定
- 平成19年度中に試行予定
 - 例えば、中国・四国地区「地域講習会事業グループ」等と連携
- 試行結果をモデルケースとしてさらに拡充

課題検討・実施状況と今後の予定 -5

□ 資格認定制度の導入可能性

- WGでもパブリック・コメントでも、意見の分かれるところ
- 評価のガイドライン策定
- 対象：個人に対して / 業者に対して
- 方式：試験による / 研修受講による
 - いずれにしても、受講機会の拡大が不可欠

□ 目録担当者のコンピテンシー

- 目録業務の管理者、リーダー育成の観点から
- 研修プログラムの策定に活用

まとめ

- 受けるべき人が受けられる研修を

- NIIと参加館との協働
 - 共に企画・実施
 - 役割分担

- 理念・責務を、改めて明確化，共通認識へ